

栗島浦村の栗島浦小中学校で6日、入学式が行われた。島外の小中学生が寮に住み込んで通学する「しおかぜ留学生」

の7人と、島内の2人が入学し、新生活への期待を胸に元気よく誓いの言葉を述べた。

上海から、東京から

新生活へ期待と誓い

しおかぜ留学は2013年度に始まった。留学生は1、2年間、寮生活を送りながら学校に行き、島のさまざまな体験をする

る。小学5年生1人、中学1、3年生6人が新規で加わり、前年度からの継続者と合わせ10人になった。島内からは小学生1

人と中学生1人が入学した。式典では星和富校長(54)が「何事にもチャレンジ精神を持つことと、周りの人のことを思いやる優しさを大事にして下さい」と激励。留学生と新入生は「人数が少ないので積極的に学校行事に取り組みたい」「皆さんの自然に触れたい」など誓いの言葉を述べた。

東京都の中学2年、山根拓輝君(13)は、すでに島の子ともたちと触れ合っており「みんなともっと仲良くなれるのが楽しみ。都会ではできない乗馬をやってみよう」と元気に話した。中国の上海市から来た中学3年、佐藤新華君(14)は「みんなの前でしゃべるときに緊張した。島でたくさん体を動かしたい」と語った。

式典後は各学年で自己紹介タイムをしたり、1年間使う教科書に名前を書いたりした。佐藤君の母、泉さん(46)は「海や山がきれいなこの島で、息子には一生懸命やりとげられることを見つけてほしい」とほほえんだ。

しおかぜ留学生10人に

栗島浦小中入学式



入学式で誓いの言葉を述べる「しおかぜ留学生」や新入生＝6日、栗島浦村

自然の中で成長したい

2015年(平成27年)4月15日(水曜日)

日本経済新聞(夕刊)



夕暮れ時、生徒が馬を巧みに操り疾走する。ここは新潟県の離島粟島。学校は粟島浦小中学校のみで27人が学ぶ。牧場で馬の世話をし、放課後に乗馬を楽しむ。2年前から離島留学生の受け入れを始め、今では半数以上が島外出身者だ。

8日、恒例の春の学校行事で大きく育ったウカメを収穫した。東京出身の山根拓輝君(13)は「海

放課後、潮風に吹かれて馬を走らせる(新潟県粟島浦町)



島の自然が先生だ

中

が透明で驚いた。山で山菜採りもやってみたい」と顔をほころぼせる。同校の星和貴校長は「留学生は寮生活を送る。お互い助け合い、みんなぐましくなっていく」と目を細める。

財団法人「日本離島センター」(東京・千代田)によると、離島留学ができる小中学校は全国に約70校あり、今後も増える見込みだという。海あり、山ありの豊かな自然が、子供たちの心身を育んでいく。

(写真・文 山本博文)



題字 江川 蒼淵
(県展委員・新潟市)
挿絵 猪爪 彦一
(県展委員・新潟市)

夢

私が初めて馬に乗ったのは二年生の時です。土曜日に何かのイベントの時でした。本当は三年生からですが特別に乗せてもらいました。乗った時はこわくて、けれど楽しくて、それから馬が大好きになりました。

きらきら

新潟市西区
曾我 れもん(11)
小学生
みなさん知っていますか。私がいま「しおかぜ留学」で暮らしている粟島の粟島牧場には道産子という馬がたくさんいます。その馬をいろいろな人で世話を

夢だった乗馬 粟島で実現

四年生の頃は、よくあこがれの馬に乗っている夢を見ました。

四年生の時、お母さんが粟島を紹介してくれました。「馬にたくさん乗れるよ。海や山、楽しい遊びもあるって」と言われ、ものすごくこころふんしました。

体験は12月でしたが、馬に乗せてもらい「これだー」と思いました。しかも私の好きな海と山の自然、やりたかった釣りもできる。こんな事は二度とないと思って昨年からしおかぜ留学をしました。

土曜日は毎日朝餵(朝食などの世話)に行くと大変だけれど、とても楽しいです。私は粟島にいる間、もっと練習して乗馬がうまくなりたいです。



踊り華やか大歓迎

栗島・島開き

栗島の本格的な観光シーズン到来を告げる「島開き」のイベントが2日、栗島浦村で開かれた。島の豊かな自然を満喫しようと約4千人が訪れ、村民は踊りや島の食材を使った料理などで盛大に出迎えた。

晴れ渡った空の下、午前11時半ごろ栗島港にフェリーが到着すると、村民は輪になって地元の名謡「さっこい三下がり」を踊って歓迎した。

また、島外からの「しおかぜ留学生」を含む栗島浦小中学校の子どもたちが元気な掛け声とともに「島っ子ソーラン」を披露。観光客は大きな拍手を送った。

タイやヒラメ、地酒などが当たる抽選会もあり、当選番号が読まれるたびに歓声が上がった。こしは初めて村特産ジャガイモの早食い選手権も開かれた。

抽選会で約5千円のタイを当てた胎内市の西村武志さん(82)は「タイは家に帰って刺身にしたい。島をゆつくり楽しみたいです」と話した。

踊りて観光客を出迎えた子どもたち(2日、栗島浦村)

栗島の魅力したためて

栗島の魅力をPRする切手シートを日本郵便
越後支社(長野市)が5月から販売している。栗島浦
中学校の生徒2人が名物を描いたデザイン切手が
含まれ、栗島浦村役場で生徒への贈呈式が開かれ
た。切手は村内や村上市、新発田市など下越北部の
69郵便局で扱っているほか、村がふるさと納税の
返礼品として使う。



名物が切手シートに 脇川、曾我さん(栗島浦中)作品も

栗島浦中学生は、昨年10
月に新潟市中央区のデザイ
ン会社「マジカ」のデザイナ
ー、山下良子さんを招いた
美術出前授業で、切手のデ
ザインを考えた。学校や栗
島中学校の生徒がデザイ
ンした切手や、写真切手がセッ
トになった切手シート

島郵便局で投票を行った結
果、2年の脇川哲平君(13)
と、3年の曾我つららさん
(14)の絵が採用された。
脇川君は、日本海のタイ
トラカメをあしらった。曾
我さんは、島内の牧場で飼
育する馬を描いた。日本郵
便越後支社は、2人のデザ
イン切手を2枚ずつ入れ、



切手シートを受け
取る脇川哲平君
(右)と曾我つらら
さん―栗島浦村

島開きや島のマスコット
「タイボークン」などの写
真切手も種類と合わせた10
枚組みシートを作った。

1日の贈呈式では、下越
北地区郵便局長会の須賀俊
一会長(64)が「島外客に島
の魅力を知ってもらえな
いといけない」と話した。島内の全小中学
生27人分の切手シートを脇
川君と曾我さんに贈った。

脇川君は「切手の実物を
見たらもったいなくて使え
ません」と笑顔。曾我さん
は「自分の絵が切手になる
のはすごい。親や友達に手
紙を送るときに使いたい」
と話した。切手シートは1
080円(税込)。

麻薬の恐ろしさや密輸入を防ぐ仕事を子どもたちに知ってもらおうと、東京税関新潟税関支署は26日、粟島浦村役場で「税関教室」を開いた。写真＝。粟島浦小、中学校の児童、生徒計19人が税関職員の説明や麻薬探知犬の実演を通して学んだ。

教室は、31日までの薬物や銃器の取り締まり強化月間に合わせて実施した。

同支署の吉田友寛総務係長が麻薬の種類や依存症などについて説明し「友達や

麻薬の怖さ 生徒ら学ぶ

粟島で税関教室



先輩から使用を誘われても、その場から走って逃げるなどして自分の身を守ってほしい」と呼び掛けた。

麻薬探知犬の実演では、10人の子どもたちがバッグを持って並んだ中から、麻薬の臭いが付いた布の入ったバッグを探知犬がかき分けると、拍手が起きた。

子どもたちは、海上で密輸を取り締まる監視艇「つばさ」にも体験乗船した。粟島周辺の海上を約30分かいてめぐり、税関の仕事の一端に触れた。

中学2年の山根拓輝君(13)は「麻薬は危ないと分かったので、関わらないようにしたい」と話した。

まっ
つ
オ
カ
ケ

栗島浦村の栗島浦中学校の生徒もたちに、島の資源で利益を生み出す経験を通して古里に誇りを持つ。村の特産の枝豆「一人娘」を使ってもらおうという試みだ。味、価格、パッケージデザインなどを組み立てる。生徒の柔軟な発想を商品開発に生かすとともに、卒業後は進学などで島を離れる子ども達に、11月ごろにお披露目する予定だ。(村上支局・山田啓介)

栗島浦中生徒がアイス開発中



試作アイスを食べ比べ、商品開発のアイディアを出し合う栗島浦中の生徒たち＝栗島浦村

村が本年度からJTB総合研究所に委託して取り組んでいる「新・地域再生マ

ネシャ」事業の一環で、県総合生協(新潟市中央区)に販路確保などを依頼。製

島の特産枝豆を凝縮

企画書作成、商談も 11月お披露目

造は長岡市の和菓子店「さかたや」に委託した。沖根では同様の取り組みの成功例がある。「コープおきなわ」が伊平屋村などの中学校で、村特産の黒糖などを使用したアイスを開発した。協力業者側にも利点がある。県総合生協総務部の尾玉義清部長(57)は「若手社員を島に派遣し、子どもたちの柔軟な発想から学んでもらう狙いもある」と話す。さかたやの営業、佐々木正敏さん(61)は「子どもたちのアイディアを、できる限りアイスに反映させたい」ともくろむ。

今月中旬の授業には、島外からの「しおかぜ留学生」を含む14人が参加。講師にコープおきなわの石原修さん(55)を招いた。石原さん

は商品開発の心得について「売り手側、買い手側、世間の利益を考えた『三方よし』を頭に入れて開発に取り組んでほしい」と説明した。

生徒は、ペースト状にした枝豆の含有量を10、20、30%にした試作アイスを食べ比べ「枝豆の量で全然味が違ふね」と語り合った。ワークショップでは「熱中症予防のために塩を入れたらどうか」などとアイディアを出した。

次の授業までに枝豆の含有量や価格、容器などを記した企画書を作成し、県総合生協やさかたやのスタッフと商談をする予定だ。埼玉県からの留学生で1年の宇佐美悠樹君(13)は「枝豆の量によってアイスの食感が全然違った。多くの人に喜んでもらえるアイスを考えたい」と意欲を語った。

JTB総合研究所の上田嘉通研究員(34)は「積極的に地域おこしに取り組む子どもの姿は、大人の心も打つ。子どもたちが産業活性化と地方創生の火付け役になれるのが、事業の最大の魅力だ」としている。

1727・7・31

中学生人権作文県大会

中3年白石和希さん、県人権擁護委員連合会長賞に佐渡市の両津中2年藤井翔太さんがそれぞれ選ばれた。県教育長賞、新潟日報賞、NHK新潟放送局長賞、アルビレックス新潟賞

中3年白石和希さん、県人権擁護委員連合会長賞に佐渡市の両津中2年藤井翔太さんがそれぞれ選ばれた。県教育長賞、新潟日報賞、NHK新潟放送局長賞、アルビレックス新潟賞

新潟地方法務局長賞

白石和希さん (栗島浦中3年)

県人権擁護委員連合会長賞

藤井翔太さん (両津中2年)

本年度は177校から1
なると思っ」と訴えてい
る。県人権擁護委員連合会長
賞の藤井さんの作品は
「しんちゃん」と呼ばれ
て。特別支援学級で学ぶ
藤井さんは、友達から身体
障害者を差別する意味の
言葉として「しんちゃん」
と呼ばれたことに傷つく。
自分自身は「相手を傷つけ
てしまったら、すぐに謝れ
る人になりたい」と思い、
「僕は僕らしく、自分らし
く頑張っていきたい」とっ
づつた。

万6536編の応募があっ
た。白石さんと藤井さんの
作品は全国大会に推薦され
る。
ほかの各賞は次の通り(敬
称略)。
県教育長賞 阿部沙也佳(新
潟・本丸中3年)▽新潟日
報社賞 袁可泉(長岡・東中
3年)▽NHK新潟放送局長
賞 佐々木悠愛(新潟・西川
中3年)▽アルビレックス新
潟賞 片野浩(船内・中条中
3年)▽優秀賞 石本倫太郎
(新潟・新津第二中3年)石
井夕稀(新潟・新津第五中1
年)山田集輝(燕・分水中3
年)丸山優(十日町・南中2
年)